

令和6年度 長岡京市立中学校
米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン

訪米・訪日報告書

長岡京市立中学校
米国短期交換留学協議会

Captain's Report 2024

We are celebrating the 40th anniversary of our sister city bond and the 20th anniversary of our student exchange this year, but that was not the only thing to make the trip special.

We have changed our program in some exciting ways for students from Nagaokakyo and Arlington—our students became teachers and held their own lessons for the Arlington students. They prepared and presented videos about daily life in Japan, taught dance moves, and answered questions about everything ‘Japan.’ The Arlington students were engaged, respectful, and incredibly friendly—without our green shirts on, I’m not sure we could have quickly picked out our students from theirs! After the lessons many students stayed (and were probably late to their next classes) to chat and bond. It was excellent to see.

We also made our typical visits to places like Fenway Park, Harvard University, and Faneuil Hall, and we had some new experiences by taking the T, Boston’s trains, and were not able to walk through Harvard’s main campus due to student protests about the Israeli-Palestinian conflict. The world, as always, makes us realize how important being flexible and challenging our perspectives really is. Our students met every challenge with some nervousness, but more importantly with open minds and hearts—and I’m very proud of them.

I hope Nagaokakyo, Arlington, and the rest of the world, will take note of the adaptability and kindness we can find so easily in our next generation. We are blessed to have such hope for the future.

Captain Conor

はじめに(キャプテン・レポート 2024)

私たちは今年、姉妹都市提携 40 周年と交換留学事業 20 周年を迎えますが、この旅行を特別なものにしたのはそれだけではありません。

長岡京市の生徒とアーリントン市の生徒のために、私たちはいくつかのエキサイティングな方法でプログラムの内容を新たなものにしました。日本の日常生活についてのビデオを準備し、発表し、ダンスを教え、日本のあらゆることについての質問に答えました。アーリントンの生徒たちは熱心で、礼儀正しく、驚くほどフレンドリーでした。私たちが緑のシャツを着ていなければ、生徒たちと私たちの生徒をすぐに見分けることができなかっただろう!レッスンの後、多くの生徒が残って(おそらく次のレッスンに遅れて)おしゃべりし、絆を深めていました。素晴らしい光景でした。

また、フェンウェイ・パーク、ハーバード大学、ファニエル・ホールといった町の代表的な場所を訪れ、ボストンの電車である T に乗ったり、イスラエル・パレスチナ紛争に関する学生の抗議デモのためにハーバード大学のメインキャンパスを歩けなかったりと、新しい経験もしました。世界はいつものように、柔軟であること、自分の視点に挑戦することがいかに大切かを気づかせてくれます。私たちの生徒たちは、緊張しながらも、それ以上に大切なこととして、オープンマインドとハートをもって、どんな困難にも立ち向かっていきました。

長岡京、アーリントン、そして世界中の人々が、私たちの次の世代に見られる順応性と優しさに注目してくれることを願っています。私たちは、未来への希望に恵まれているのだから。

団長 コナー

目次

はじめに

I 訪米

1 訪問団員名簿	1
2 訪問日程	2
3 生徒感想文	3
4 アーリントンだより	20

II 訪日

1 訪日団員名簿	43
2 訪問日程	44
3 訪問の様子	45

I 訪米

令和6年度 米国アーリントン訪問団員リスト

学校	学年	名前	Name
長岡中学校	2	清水 颯介	Sosuke Shimizu
長岡中学校	2	太田 夏綺	Natsuki Ohta
長岡中学校	2	松尾 拓海	Takumi Matsuo
長岡中学校	2	三浦 晃太	Kohta Miura
長岡第二中学校	2	高田 夏音	Natsune Takada
長岡第二中学校	2	福永 泰輔	Taisuke Fukunaga
長岡第三中学校	2	吉田 紗奈	Sana Yoshida
長岡第三中学校	2	青山 友莉	Yuri Aoyama
長岡第四中学校	2	加藤 然	Zen Kato
長岡第四中学校	2	今泉 赴人	Taketo Imaizumi
長岡中学校	3	林 瑞季	Mizuki Hayashi
長岡中学校	3	宮田 愛菜	Mana Miyata
長岡第三中学校	3	和田 満衣	Mai Wada
長岡第三中学校	3	武重 創大	Sota Takeshige
長岡第四中学校	3	東櫻 桔成	Kinari Higashisakura
長岡第四中学校	3	安部 遥理	Harutaka Abe

役職	名前	Name
国際理解教育指導員	藤原 麻紀子	Makiko Fujiwara
長岡京市AET	ボイル・コナー	Conor Boyle
長岡京市AET	ウォルターズ・ヘンリー	Henry Walters
課長	春名 貴之	Takayuki Haruna

令和6年度 米国アーリントン訪問団 旅行日程

日次	都 市	時 間	交通機関	行程
4 月 23 日 (火)	長岡京市 発 伊丹空港発 成田空港発 ボストン空港	10 : 40 11 : 00 12 : 20 14 : 35 18 : 25	貸切バス JL3006 JL008	集合場所：帝産観光バス京都支店 帝産観光バス京都支店 出発 伊丹空港着 チェックイン等 伊丹空港-成田空港(16 : 00 着) 成田空港-ボストン空港(同日 18 : 15 着) 到着後ホストファミリーとホスト宅へ
～				
5 月 2 日 (木)	ボストン空港 発	13 : 30	JL007	ボストン-成田
5 月 3 日 (金)	成田空港 着 成田空港 発 伊丹空港 発 長岡京市 着	16 : 15 18 : 25 21 : 00 22 : 10	JL007 JL3009 貸切バス	ボストン空港-成田空港 (16 : 15 着) 成田空港-伊丹空港 (19 : 55 着) 解散場所：帝産観光バス京都支店 ※解散時間は入国手続きや交通状況等により時間が前後する可能性があります。予めご了承ください。

滞在中のプログラム (参考)

- ・ オトソン中学校、アーリントン高校、ダリン小学校訪問
- ・ レッドソックス試合観戦、ファンウェイ球場ツアー、ボストン散策、ハーバード、アクアリウム、クインシーマーケット、アーリントン市内見学、レキシントン・コンコード散策
- ・ タウンミーティングに参加 (セレモニー・スピーチ)、タウンホール訪問、アーリントン市内見学、市民との文化交流
- ・ その他交流行事等への参加

長岡中学校 2 年

清水 颯介

Red sox game

ぼくたち訪問団はレッドソックスの試合に行きました。僕は野球がすごく好きでレッドソックスの試合をすごく楽しみにしていました。

試合が始まって初回中盤、共に緊迫したイニングが続く試合でしたが、吉田正尚選手などが打ち出し、そこからレッドソックスは一挙 5 点を入れました。そこでもう僕たちはこの試合は勝つだろうと思ったけど、メジャーは日本の野球とは一味違いました。相手チームのカブスが満塁ホームランを打ち、すぐに試合がひっくり返りました。

最終回、三者凡退で抑えることが出来たレッドソックスの攻撃。先頭はこの日の 1 番バッターが打席に立ちます。先頭バッターがファボールで完全に流れはレッドソックス、2 番バッターがヒットを打ってランナー 1、3 塁、この日好調の 3 番バッター、3 塁ランナーが帰ったらさよなら勝ちと緊張した試合展開で、見事レッドソックスがポテンヒットで試合を決めました！

この試合を決めた瞬間の盛り上がりの雰囲気もすごく、8 回に流れるスイートキャロラインはみんな立ち上がってノリノリで歌いました。

アメリカ人はノリが良く、「レッツゴー！レッドソックス！」と観客みんなが大きな声で揃えて応援したり、ホームラン打った時も日本ではメガホン叩くくらいですが、アメリカでは言葉でも身体全体でも感情を爆発させているところがみんなで一体となって応援している感じで、これがアメリカの野球のファンの声援なんだなと感じました。

その他にも日本では 160 円のジュースが 1078 円で物価がすごく高かったり、手動のスコアボードのまま歴史ある球場をそのまま残してその趣を大切にしたり雰囲気が違うところが多々あってびっくりしました。

次アーリントンに行く際は、あの舞台で僕自身が野球をやって、長岡京市から来たアーリントン訪問団を出迎えたいと思います。

長岡中学校 2 年
太田 夏綺

今回のアーリントン訪問は私にとって特別な思い出で初めてした経験も多くアーリントンから帰ってきた今でも鮮明に覚えています。私自身、英語を話すのが得意ではなくコミュニケーションがとれるのかと心配な気持ちになることも多かったけど時間が経つにつれ英語を話すのが楽しくなり、とても貴重な経験をさせてもらったんだなと実感しています。

その中でも鮮明に覚えている出来事は、古い歴史を誇るアーリントンやボストンについて学ぶために色んな場所を訪れ、コナー先生やヘンリー先生に英語で教えてもらったことです。私は 2 日目に「ハーバード大学」に行きその後「メモリアルホール」に行きました。そこで、ボストンの建物の歴史や南北戦争について知りました。メモリアルホールは私の中でもとても印象に残っており、そこでは南北戦争で亡くなったハーバード生の名前が刻まれているというのを見て、普段日本では感じる事のできない歴史を学べて非常に勉強になったと思っています。他にも「レキシントン」を訪れ、独立戦争について学びました。レキシントンでは当時の過酷な状況などが具体的に知れて、当時の人々の様子や心境を想像しながら学ぶことができました。

訪問中は、ホストファミリーと過ごす時間が多くアメリカでしかできない体験をたくさんしました。2 日目の夜にホストマザーと一緒にしたバドミントンはとても楽しかったです。日本では夜に小学校でバドミントンをすることはないけれどアメリカではそれが普通なのだと知って文化の違いも感じる事ができました。また、スポーツを通してホストマザーや地域の方との仲も深まり私の大切に幸せな思い出ができました。

私は今回のアーリントン訪問を通してもっと英語について学びたいと感じるようになり、将来の事について考える機会にもなりました。将来、私は世界中の色々な人と会話や仕事ができるようになって、いつかまたアーリントンに帰って自分の家族に会いに行きたいです。

長岡中学校 2 年
松尾 拓海

フェンウェイパークツアー

アーリントンにいた10日間は、すごく楽しくて僕の宝物になりました。

ホストファミリーと初めて会ったときも、すごく優しい人で安心しました。家に着いたときはちょっとした料理をつくってくれました。ホストファミリーは英語があまり話せない僕にも伝わるように、ゆっくり英語を話してくれました。

フェンウェイパーク球場は、日本人のガイドさんがガイドをしてくれました。球場の色々なところをまわりながら壁に書いてある背番号の意味などを教えてくれました。背番号の意味は、永久欠番です。一つだけ青色で書いてある背番号は、ジャッキーロビンソンというメジャーリーガーで、メジャー全体の永久欠番だと教えてくれました。お金では買えないという記者席にも入らせてもらえて、すごく特別な体験ができました。ほかにもライトスタンドにある一席だけ色の違うベンチもありました。一つだけ色が違うのは、テッド・ウィリアムズが打った、この球場最長の本塁打の落下地点だそうです。このホームランは居眠りをしていたビジネスマンに直撃したそうです。

みんなで中学校にもいきました。中学校で授業に参加させてもらいました。ぼくはホストファミリーと一緒に授業を受けました。理科やプログラミング、中国語などいろいろな授業を受けました。昼ご飯を食べるときもすごくにぎやかで楽しかったです。

僕はアメリカのバスケットボールの試合を、ホストファミリーに連れて行ってもらいました。プレーオフのボストンセルティックス対マイアミヒートでした。セルティックスが勝ってすごくうれしかったです。アーリントンから帰る前日につれていってもらい本当に最高の思い出を最後につくってもらえました。

今回の訪問で、英語だけでなく人とかかわり方など様々なことを学びました。行くまでに学習会をしてくれた先生方などお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。将来またアーリントンに行きたいです。

長岡中学校 2 年
三浦 晃太

5月1日に、先生、生徒、ホストファミリーが全員が集まったのフェアウェルパーティーが開催されました。それぞれのホストファミリーが食事を用意してくれました。僕のホストマザーは日本人だったので、たくさんのからあげを用意してくれました。他にもピザやホットドック、メキシカンや見たことのない料理、巨大なケーキがあり、とても興奮しました。ほぼ全て食べてみましたが、メキシカンが特においしくて気に入りました。

食事のあとは、全員で灯籠流しをしました。初めてでしたが、とてもきれいでした。そして、ホストファミリーに感謝の気持ちを込めて歌とソーラン節を披露しました。滞在中に訪問した学校やこのパーティーでも、ソーラン節を説明する役でしたが、毎回とても緊張しました。ホストファミリーたちは、とても喜んでくれました。

浴衣や空手着を着ている生徒もいて、空手のわざをひろうしていたり、みんな他のホストファミリーとも交流できてとても楽しい時間でした。もう少しみんなで写真を撮ればよかったと思いました。

毎日、かなりハードスケジュールで、夜はベッドに入った瞬間に寝ていましたが、楽しすぎて、10日間があっという間に終わってしまいました。現地の生徒との交流や自分たちだけの買い物などたくさんの貴重で刺激的な体験ができました。

最後に、半年間一緒に頑張った仲間や先生方、ありがとうございました。そして、ホストファミリーには本当にお世話になり感謝をしています。ホストファミリーや現地で仲良くなった子とは、これからも交流を続けてまたいつか再会出来ると良いなと思います。そして、この経験をこれからもいろいろな場面でいかしていきたいです。

長岡第二中学校 2 年

高田 夏音

私は今回のアーリントン訪問で現地の方々の優しさに触れる事が出来ました。最初は上手く話せるか心配だったのですが、話をとても聞いてくださり、段々と英語になれることが出来ました。ホストファミリーはすごく優しく、本当の家族のように接してくれました。ホストファミリーと過ごした時間は宝物になりました。

そして、沢山の場所へ行きました。特に印象に残った場所はハーバードです。ハーバード大学の図書館へ行った際は沢山のことを学ぶ事ができました。ハーバード大学では、奴隷制を用いた政治がされていた事を知りました。家系の紋章は奴隷制を用いたから良くないとされていますが、ハーバード大学にとって大きな役割を果たしたためこの家系の紋章が飾られています。

ハーバードのお土産屋さんで、ボールペンを買いました。安くて買いやすい値段でした。ハーバードのグッズや、本など沢山の物が売っていました。店員さんの英語がとても聞き取りやすく、カードで支払う時画面に英語が出てきて、読めなくて困っていた時に優しく教えてくださってとても嬉しかったです。

そして、美術館にも行きました。美術館はとっても大きかったです。日本であまり見れないような作品が沢山見れて良い経験になりました。

あっという間の 11 日間でした。沢山の方に支えられたからこそこのアーリントン訪問に行くことができ、そこで沢山の学びを得ることができたと思います。

アーリントンの歴史や日本では絶対に見れない事が沢山あり、見慣れない景色ばかりですごく新鮮でした。この経験を活かしてこれから頑張りたいと思います。

長岡第二中学校 2 年

福永 泰輔

アーリントンでの十日間は、僕にとって最高の日々でした。初めてホストファミリーに会った時、すごくフレンドリーに話しかけてくれて、びっくりしました。それから家に着くと事前のやり取りの中で、僕が好きだと言っていたフライドチキンとポテトが用意されていました。感動して、自分の使える英語で感謝を伝え、ちゃんと伝わって、ホストファミリーも喜んでくれて嬉しかったです。

ホストファミリーはみんなとても優しく、本当の家族のように接してくれました。中学生と高校生の兄弟は特に積極的に話してくれて、だんだん馴染むことができました。

週末には、サッカーの試合を見に連れて行ってもらい、その試合には世界的に有名なりオネルーメッシ選手が出場していて、最高の思い出になりました。

僕達はアーリントンでの 7 日目に、消防署に行きました。そこにはたくさんの消防士さんがいて、僕はその体の大きさに圧倒されました。筋肉がムキムキで、まるでアクション映画の主人公みたいで凄かったです。消防署長さんのお話を聞いた後、全員で交代に消防車に乗せてもらいました。アメリカの消防車は日本のものより大きく、運転席に座るととても見晴らしが良かったです。その後、テレビ局に向かう時に、署長さんが運転する車に乗せてもらいました。車内で、署長さんが大きな音で音楽を流してくれたので、みんなで歌ってとても楽しかったです。驚いたのは、その音が外にも聞こえるくらいの大音量だったことです。

署長がそんなことして大丈夫なのかなと思ったけれど、アメリカの人はノリが良くて、おおらかで、自由でいいなと思いました。

今回の訪問を通して、普通の旅行では絶対にできないような経験ができました。また、行く前は英語で話すことに自信がありませんでしたが、向こうに行って、とにかく伝えようとするのが大切なんだと気づきました。この経験を忘れず、将来に活かしていけるようにしたいです。

長岡第三中学校 2 年

吉田 紗奈

振り返って考えると 10 日間と言うのは長いようで短い時間でした。私の中で「自分がアーリントンに行く」という実感が湧いたのはボストン空港に到着した時でした。空港に着いた時、どこを見ても英語しかなくてその時に初めて「アメリカに来た」という事を感じました。

訪問 2 日目、私達は水族館を訪れました。これは水族館に限ったことではないのですが、アメリカは日本に比べてやはり建物が大きかったです。中へ入ってみると立体を感じさせるような 1 階と 2 階が吹き抜けの天井になった造りでした。また見慣れた魚だけではなく見たこともない魚も沢山いて驚きました。自分の中でかなり衝撃的だったのは「順路がない」ということです。日本の水族館は一度通り過ぎてしまった魚はもう一度見ることはできませんが、アメリカの水族館はどこから回っても良かったし、何度も戻って同じ魚を見返す事ができました。一通り魚を見終わった後、お土産屋さんを見て回ったのですが魚のぬいぐるみが多く売られていて、そこは日本と同じ共通点だなと思いました。

私がアーリントン訪問の中で 1 番大切だと感じたことは「挨拶」です。ホストファミリーも、お店の店員さんも、バスの運転手さんなどの人も挨拶をしていて、そこで改めて挨拶の大切さを感じました。さらに現地の方々は初対面の方にでも「お大事に、や「調子どう？」など気軽にコミュニケーションを取っていてそこに感激しました。私も挨拶は苦手な朝、地域の方や同級生と会っても挨拶ができていない事があるので、これからはもっと大切にしたいと思いました。

英語をこれから先もっと学んで自分が思った事を、自分の言葉で伝えられるようになりたいです。そして、私を家族として暖かく迎えてくれたホストファミリーと再会したいです。

長岡第三中学校 2 年
青山 友莉

「もう一度アーリントンに行きたい。」私は日本に帰ってきて、この気持ちを抑えることは出来ませんでした。なぜなら、アーリントンで過ごした日々があまりにも充実し、私にたくさん刺激を与えてくれたからです。訪問した先々では、私たちを大歓迎してくださり、本当に夢のような楽しい経験をする事ができました。

私を日々支えてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。私を家族として迎え入れてくださり、一緒にスポーツやゲームをし、時にはショッピングにも連れて行ってくれました。パパが作るご飯はとてもおいしかったです。特に、ボロネーゼは最高です。私のホストファミリーにはアーリントン高校に通う高校生がいました。高校訪問の時は、一緒に学校へ行きました。アーリントン高校では、私たち訪問団のために、家庭科の先生が朝食用のパンケーキを作って待っていました。フルーツや手作りバターもあり、とても美味しかったのでおかわりをしました。次に、生徒が学校案内をしてくれました。学校の中ですれ違う先生や生徒はみんな、私たちと笑顔で挨拶を交わし、とてもフレンドリーに接してくれたことを今でも覚えています。そして、次は私たちがソーラン節を披露しました。とても緊張しましたが、生徒の皆さんの盛大な拍手により、清々しい気持ちで踊ることが出来ました。また、私たちが生徒の皆さんにソーラン節を教えました。英語が伝わらなかったらどうしようという不安な気持ちがありましたが、私が話している英語を分かろうとしてくれる生徒がたくさんいてうれしかったです。日本についての質問がたくさんあり、会話が弾みました。そして、その日の夜は、ホストファミリーとアーリントン高校の会話で盛り上がりました。

私たちを迎え入れてくださったアーリントンの皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。私は、もっと英語力を向上させて、もう一度アーリントンに行きたいと思います。ホストファミリーと再会できることを励みにし、これからも自分磨きを頑張ります。

長岡第四中学校 2年

加藤 然

「絶対もう一度アメリカに行く。」これは、私が日本で家族と再会した時に言った言葉です。このアーリントン訪問が私にとって、人生最大の経験になりました。今回たくさんのプログラムを体験させてもらいました。その中でも、ACMIに行った事は素晴らしい体験になりました。ACMIとはアーリントンのケーブルテレビ局のことです。そこで、撮影に使われているカメラなどのたくさんの機器の使い方を教えてもらい、体験をしました。日本でもめったに出来ないことを体験させて頂きました。

私はホームステイをさせてもらって、時には英語がわからない時がたくさんあったり、話が詰まってしまったこともあるけど、そんな時にホストファミリーが分かりやすい英語を使ってくれたり、私の話を理解しようとしてくれました。なので、私もジェスチャーを使って少しでもホストファミリーに伝わるように努力しました。

ホストファミリーや近所の友達とバスケットボールをしたのは、とても楽しかったです。初めは、全く知らなかったので、緊張していましたが、バスケットボールという共通の話題で仲良くなり、バスケットボールについてだけでなく、様々なことを話せるようになりました。その時に私は言語の違う国でも共通の話題を見つけ、仲良くなれることに気付きました。

私は今回の訪問で沢山のことを学び、まだ足りていない部分があると気づきました。この学びや未熟な部分をこれからの自分の成長に繋げていきたいと思いました。今回の訪問に関わった先生方やホストファミリーや仲間達に感謝の気持ちでいっぱいです。また、この素晴らしい経験をこれからも沢山のの人に経験して欲しいです。

長岡第四中学校 2 年

今泉 赳人

今回のアーリントン訪問は、私にとって初めての海外渡航で、英語をしっかりと話すことができるか不安でした。けれどいざ行ってみるとアメリカの文化と日本の文化の違いを肌で感じ圧倒され、そんな不安は忘れてしまいました。アメリカの人たちは、私にはとても真似できないほどフレンドリーでした。そして日本とはかなり感覚も違いました。例えば消防署見学の後で消防署長の車に乗った時のことです。署長のケビンさんは私たちを乗せて窓を全開でスイートキャロラインを最大音量でかけながら走って行きました。とてもアメリカらしくて楽しかったです。

また日本との違いで印象に残ったのは中学校などの学校生活や食文化についてです。食について一番印象に残っているのは Eagle's Deli で食べた特大ハンバーガーです。アメリカはサイズ感が日本と違い、普通サイズでも日本よりかなり大きいと聞いたことありました。そんな中 Eagle's Deli のハンバーガーはビックサイズだと聞いて、アメリカ基準のビックサイズがどんなものなのか気になっていました。そして出てきたハンバーガーの大きさとそれを運ぶ店員さんのバランス感覚に驚きました。ハンバーグが 10 枚以上もはさんであって高さがありました。みんなからも「でかっ!」と声が上がりました。またポテトの量もとても多かったです。2 つの大きなハンバーガーを 20 人で分けました。それでも余りがでたので、おかわりがありました。私は 2 回おかわりしました。合計 1.75 個食べました。それだけでもアメリカに行く理由になるほど美味しいハンバーガーでした。

最後に私が今回のアーリントン訪問で得たものは、言葉では表現し出来ないほど素晴らしく、そして自分にとってとてもとても大切なものでした。

My heart is screaming, "I want to go to Arlington again!"

長岡中学校 3 年

林 瑞季

私はアーリントンに行って、アーリントンでの乗り物で日本と違うと思ったところがありました。主に乗ったのは、バスと地下鉄です。

日本の乗り物と比べてとても勢いがあります。揺れが激しいので乗り物酔いしやすかったです。急停車が多く、バス乗り場は地上ではなく地下にありました。日本ではあまり見ないので驚きました。バスや電車の座席は日本とあまり変わらなかったです。車道が反対なので、運転手が運転する場所も日本と逆でとても面白いと思いました。

アメリカでも定期があって、それをタッチすることで支払いができます。私が使ったのはチャリーカードというカードでした。バスや電車に乗る時に利用しました。日本で言うICOCAやSUICAのようなものです。カードにお金をチャージして使います。日本ではこれを使って買い物ができますが、アメリカでは出来なさそうでした。このカードは、マサチューセッツ州で使える乗り物カードです。

もう一つは、ホストファミリーの車に乗りました。日本とは違い、ガソリンを使わない電気自動車が多かったです。自分の家の車よりも進化していて、事故防止の為のカメラもついていました。日本にはあまり無い、座席を温めるヒーターみたいなものがありました。自転車や歩行者がぶつかりそうになると、音を鳴らして知らせてくれるような装置もありました。日本と同じ乗り物でも、少しずつ違うところが見られたのでとても面白かったです。

この経験から日常生活での、様々な場面で生かしていきたいです。

長岡中学校 3 年
宮田 愛菜

私はアーリントンに行く前に期待と同時に多くの不安を感じていました。

初めて家族と離れ、1 人で行動しなければならないからです。

しかし現在ではホストファミリーを始めとするたくさんの人たちの支えで多くのことを学ぶことができました。

現地のダリン小学校へ行った時、多くの生徒がハローと声をかけてくれたり、発表で一緒に歌ってくれたり、盛り上げたりしてくれました。

現地では小中高校で発表しましたが、小学校の発表は、高校や中学校とは違いとても多くの生徒と一緒に歌ってくれました。発表しているときに楽しい感情と同時に今まで多くの練習をしてきて良かったなと思いました。

他にも、ジャパニーズクラスでは習字で簡単な漢字と一緒に書いたり、生徒の名前を聞いてカタカナでどうやって書くのかを教えてあげました。習字を通じて日本について知ってもらえた気がし、良い経験になりました。

アメリカの生徒は、自分の名前をカタカナで書くときごく気に入って、何度も言葉にしている姿を見て自分も嬉しい気持ちになりました。

小学校内では、日本との違いを感じさせる部分がありました。

例えば、壁がカラフルだったり、机の並ぶ場所は、グループに分けられた形になっていたりしているところです。

1 番驚いたのはランチルームがとても広く他のクラスの人とも仲良く食べていると聞いたときとても驚きました。

日本の学校と比べて、様々な違いがあって日本に帰ってきてからも、生徒の発言の自由さや雰囲気などアメリカならではのものがあったことがわかりました。

印象に残っていることは、学校案内をしてくれた生徒です。

なぜなら、学校案内はどうしても私たちでは伝わりにくい英語などを使わないといけないうのにジェスチャーや話す速度などを考えてくれて言葉以外でも伝えようとする気持ちの大切さを学ぶことができました。

今回の短期留学を通じて、海外の人たちとの交流、アメリカの文化や習慣について学ぶことができました。

これは私が渡航前に、学びたいと思っていたことです。

ですが行ってみると他にももっと多くのことを学びました。ホストファミリーとの交流の中で学んだ、伝えたいという気持ちを大切にすることや文化の違いなどはあるけれども楽しむことができることです。

アーリントンに行く前の自分と帰ってきた自分を比べると考え方が変わったと感じています。

それだけ私にとって大きな変化を与えてくれました。これからも、今回の経験を忘れずに生活していきたいです。

長岡第三中学校 3 年
和田 満衣

「ロビンス図書館に行ったこと」

初めて入った時に、思わず「わぁ」となるような荘厳な雰囲気のあるロビンス図書館に行きました。シャンデリアが天井についていたり、床がタイルだったりと、とても綺麗でした。

ロビンス図書館の司書の方にロビンス図書館の案内や紹介をしてもらいました。ロビンス図書館には、たくさんの種類の本が置いてありました。その本の中には、英語だけでなく、中国語や日本語の本もありました。新しく入ってきたと紹介してもらった日本の本の中に「更年期のヨガ」というものがあり、小説などだけではなくこんなジャンルの本もあるんだなと団員のみんなで微笑してしまいました。その他にも日本の図書館にはあまり置かれていない、漫画も置いてありました。

また、長岡京市からの贈り物である着物が展示してある部屋も紹介して貰いました。長岡京市が着物の贈り物をしていたことを初めて知り、アーリントンと長岡京市とのつながりを改めて実感しました。その着物は送られてきてから何年か経っているのにも関わらずとても綺麗で、大切にしてくれているんだということを知れて私が着物を贈ったわけじゃないけれど、嬉しい気持ちになりました。

図書館の案内や紹介をしてもらった後、ミニソファや喫茶店にありそうなおしゃれな机、机に水性ペンで絵を描いて遊べるものがある休憩スペースのような所で、団員のみんなとおしゃべりしたり、遊んだりしました。そのスペースには日本の漫画もありました。日本の図書館には本を読むスペースはあっても、このような自由に楽しめる空間はないので、ここも日本の図書館との違いだなと思いました。このスペースで団員のみんなと遊んだり、おしゃべりするのは楽しかったです。

長岡第三中学校 3 年
武重 創大

僕たちアーリントン短期交換留学団は、訪問三日目、アーリントンのオトソン中学校へ行きました。この学校訪問は、自分が一番楽しみにしていたとともに、一番不安だった予定の一つでした。理由は、昨年この活動に参加した友人に、学校訪問が一番楽しかったと聞いていたことと、この場で自分がちょっとした挨拶をすることになっていたからです。そしていざ本番。挨拶はしっかり言い切ることができ、聞いていた生徒の皆さんも拍手をしてくれて、とてもうれしかったです。この中学校で僕は日本との違いを感じました。それは、感情の表し方の違いです。僕たち日本人は、あまり感情を表に出さず、相手のことを考えて発言しますが、アメリカの人たちは言いたいことははっきり言うし、相手もそれを分かっているのであまり気にしません。最初はそんな空気感に圧倒されて、少し引き気味になっていましたが、少し過ごせば、周りの人が話しかけてくれて、自分も楽しくしゃべれるようになりました。しかも、日本で友達としゃべるよりもはるかに楽でした。相手もはっきり気持ちを言うし、こっちもはっきり気持ちを言う。そうすることでしっかりと相手に気持ちが伝わるし、相手のこともはっきりとわかるので明るく接することができました。ですが、自分の気持ちを英語でうまく伝えられないときがあり、その時は、少し辛かったです。そんな時、同じ教室で勉強していた生徒が、日本語で、分からないときは分からないとはっきり言えば、相手も対応できるし、黙ってちゃ何もないと言ってくれました。この経験を通して、日本でも、相手の気持ちを考えながらも、思ったことは出来るだけはっきり伝えるのが大事だと学びました。このような経験が出来るこの活動にこれからも多くの人に参加し、未来につなげていけるといいなと感じました。

長岡第四中学校 3 年
東櫻 桔成

アーリントン訪問で感じたこと

僕が訪問で感じたことはみんながフレンドリーで温かい人たちが多かったことです。僕が買い物をしていた時に何気ないことを話しかけてくれる人もいました。そこは日本とは違うところだと感じました。ホストファミリーの人もここを自分の家だと思っていいよと言ってくれた時にとてもうれしかったです。その他に、一緒にバスケットボールをしたり、サイクリングをしたり、この人たちは僕たちを本当の家族だと思ってくれているんだなと実感しました。そこで僕も家族と思うようになりました。今度、アーリントンから訪問してくる人を自分の家族のように向かえ入れることができればいいなと思いました。

アーリントンの散策では警察署 (police station) などの訪問に行きました。

この警察署訪問では長岡京市 (日本) との違いがありました。

アーリントンには交番がなく警察署しかないことです。僕たちにとって交番はとても身近な存在ですがアーリントンには交番のようなものがない事に僕は驚きました。パトカーや白バイに乗る体験をしたり、施設内の見学をしました。特に印象に残ったのは防弾チョッキを着たことです。初めて着てみて、重くてこれを普通に着ていてとてもすごいと思いました。このような体験は、どれもなかなか日本では経験することのできません。とても心に残る体験となりました。

警察署訪問では見学以外にもアーリントンと長岡京市の 40 周年を記念した植樹を行いました。僕たちがその植樹を見たときにとても貴重な場面に立ち会えているんだなと感じました。今回植えた木と僕たちがのびのびと成長して大人になり、桜の木も満開になる時にまた見に来れることを楽しみにしています。

今回のアーリントン訪問時に、色々なプログラムを考えて下さった方々にはとても感謝しています。とても貴重で素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

長岡第四中学校 3 年
安部 遙理

十日間のホームステイを経験することで、異文化に対する理解を深め、より多様な視点で物事を見ることができるようになったと感じています。

まず、多くの現地の方と関わってみて、「相手の考えを尊重する文化」に驚きました。具体的には自分の意見を伝えたとき、ほとんどの場合会話のはじめが意見の肯定から始まったことです。各々の意思をはっきりと伝え合い円滑なコミュニケーションをとることができたと感じました。また、ハンドシェイクやチームのサインなどの友情表現や喜怒哀楽の表情もとても豊かでした。僕が出会った人たちは、初めから友達のように接してくれる、とてもフレンドリーで親切な方々でした。

ホストファミリーも、初日に「僕たちは家族だから自分の家だと思って自由に過ごしてくれたらいいよ」と、「ゲスト」としてではなく「家族」として迎えてくれました。帰るときには力強いハグをしながら「家族がいなくなってしまうのはさみしい」と言ってくださいました。渡米前、僕はおもてなしの精神を持ちアメリカからの留学生を迎えようと思っていましたが、今は「家族」とし迎え入れてあげたいと考えています。

タウンミーティングの施設は、木やレンガで作られた日本では見たことがない美しい建物で印象に残っています。市議会議員の皆さんが胸に手を当てながら国歌を歌っている姿はとてもカッコ良かったです。

本プログラムへの参加、特にホストファミリーの視点を通じて日本・米国、それ以外の国の素晴らしいところまで数多くの発見がありました。また、改めて日本の良さも確認できました。世界の見方がより解像度高くなったと実感しています。今回、僕を温かく迎えてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。この 10 日間にできた繋がりを大切にしていこうと思います。半年間一緒に勉強してきたメンバー、サポートしてくれた先生方、僕たちのために動いてくださったすべての方々に感謝します。

DAY1_From Arlington 2024.4.23



出発式

出発式では、中小路市長や西村教育長から、激励のお言葉をいただきました。たくさんの保護者のみなさんや市役所職員に見送られてアーリントンに出発しました。子どもたちは少し緊張気味の中、長岡京市を後にしました。

伊丹空港へ向かうバスの中で

伊丹空港に向かうバスでは、さっそく、現地で披露する歌「Sweet Caloline」やスピーチの練習を頑張りました！

伊丹空港

それぞれチェックインを無事に終え、展望デッキで昼食をとりました。

出発前に記念撮影を行い、ここで、山崎さん、鍋島さん、遠山さんとお別れしました。

14 時 35 分に JAL3006 便で成田空港に向かいました。

いよいよ日本を離れます！

(成田空港→ボストンローガン空港)

成田空港に到着後、搭乗時刻まで少し時間があつたので、30 分ほど自由行動になりました。子どもたちは、お土産屋さんを見て回ったり、スターバックスでドリンクを買ったり、トランプをしたりして過ごしました。

集合時刻少し前にはみんな集合し、一人一人がルールを守って行動できていました。

早くもスリッパに履き替えたり、枕を首に巻いていたりと、ボストンに向かう飛行機での約 12 時間の長旅に向けて、準備万端でした！

そして、いよいよボストンに到着し、入国検査を受けました。

事前には練習をしていたのですが、いざ本番を迎え、みんな緊張しながら入国検査を受け、無事に全員通ることができました。

いざ、アーリントンへ！

ボストンの空港までスクールバスが出迎えに来てくださり、みんなそのバスに乗り込みました。そして、ホストファミリーをコーディネートしてくださった、ジョアンさんの家に向かいました。

ジョアンさんの家では、ホストファミリーの皆さんがそれぞれの写真を持って大歓迎！

心温まるおもてなしにみんなの疲れが吹き飛んでいたようでした！

そして、一人一人、自分がお世話になるホストファミリーの方々と対面し、出会いの喜びを感じ

ていました。最後に、ジョアンさんからレッドソックスの帽子をもらい、大喜びでした。そして、それぞれのホストファミリーの家に向かいました。

第 1 日目は長旅でしたが、大きな問題もなくアーリントンまでやって来ることができました。明日からは本格的にこちらでの活動です。

DAY2_From Arlington 2024.4.24



ボストンツアー①

ハーバード大学

初日にホストファミリーの皆さんと出会った、ジョアンさんの家に集合しました。それぞれ、ホストファミリーの家で初めて泊まっての再会だったので、みんな仲間との再会を喜んでいました。

引率の藤原先生からチャリーカード(交通系 IC)をもらい、現地初めての路線バスを体験し、目的地ハーバード大学へ向かいました。

まずは、引率のヘンリー先生のお母さんの働いておられるワッサーシュタインホールという図書館を、ご好意で見学させていただきました。広くて静かで厳粛な雰囲気みんな緊張気味でした。世界中の本が集められており、中には日本の本もありました。

そこで、ハーバード大学は、1637 年に始まり、アメリカで最も古い大学だということも知りました。

メモリアルホール

南北戦争で亡くなられたハーバード大学の学生のために建てられたホールで、壁面には、学生の名前が刻まれていました。荘厳な建物は圧巻でした。

ハーバードスクエア

ハーバード大学関連のグッズが売っているショップがあり、そこで、自由時間となり、お土産物を買ったり、コーヒーショップでお茶をしたりと楽しい時間を過ごしました。

昼食

シェイクシャックというハンバーガー屋さんで昼食をとりました。

それぞれに 15 ドルを渡され、自分で店員さんに英語で注文をしました。

それぞれが予算 15 ドルからハンバーガーやポテト、ドリンクなどを決め、いざ、注文。

うまく伝えることでできた時の子どもたちのホッとした表情が印象的でした。

いよいよフェンウェイパークへ！

次は、電車に乗ってレッドソックスのホームグラウンドであるフェンウェイパークへ向かいました。

28日には、ここで実際のゲームを観戦します。

途中、広い公園により、合唱の練習をしてから、フェンウェイパークへ。

ガイドツアーでは、ガイドの方が日本語で丁寧に説明をしてくださいました。

子どもたちは、広い球場、綺麗な芝生に驚いている様子でした。

グリーンモンスターという外野スタンドの上まで上がらせてもらい、みんな嬉しそうでした。

また、一つだけ赤い外野のシートがあり、そのシートが赤い理由を知りました。

答えは、帰ってから、お子さんに聞いてみてくださいね。

最後に、グッズ売り場で少し自由時間。

ショッピングを楽しんでいました。

帰りは電車とバスを乗り継いで帰りました。

子どもたちはみんな疲れた様子で、最後のバス内では、みんな爆睡でした！

以上、簡単ではありましたが、2日目の報告でした。

明日も観光で、水族館やクインシーマーケットに行く予定です。

DAY3_From Arlington 2024.4.25



ボストンツアー②

The New England Aquarium (水族館)

はじめに、ボストンにある、ニューイングランド水族館に行きました。

水族館では、はじめにアシカやペンギンがお出迎えしてくれました。

ここでも、約 1 時間自由に見学をしました。

見学後、グッズ売り場でショッピングを楽しみました。

クインシーマーケットへ

水族館の見学後、歩いてクインシーマーケットへ向かいました。

そこには、たくさんのお店があるフードコートやお土産を買えるお店などがありました。

そこでは、たつぷりと時間をとり、昼食やショッピングを楽しみました。

今日も、藤原先生から 1 人 15 ドルのお金をもらい、それぞれ自分で昼ごはんを注文して食べました。昼食後は、ショッピングを楽しみました。

その後、水族館でのエイやサメに触れるエリアが開催となったので、再度水族館を訪れ、ふれあい体験をしてから、ハーバードにある美術館へ向かいました。

ハーバード美術館

クインシーマーケットから美術館に向かう途中に、マサチューセッツステイトハウス（京都でいう府庁）に寄り、独立戦争の話をコナー先生やヘンリー先生から聞きました。

当時の英雄・ポールリビアは、深夜に馬を走らせイギリス軍の攻撃を通報したことや、その知らせで 1 分で戦いの準備をする、ミニットマンという方々がおられたことなどを聞きました。

次に、近くの公園で、明日から始まる現地校との交流に向け、歌や踊りの練習を行いました。歌は昨日よりさらに大きな声で歌えており、踊りはみんなバッチリ揃っており、明日への自信につながりました。

そして、最後に美術館へそこから電車で向かいました。

有名なゴッホやモネなどの作品が展示されており、世界の美術作品を間近で鑑賞することができました。

美術鑑賞後、バスで帰りました。本日もたくさん歩き、学び、体験しました。バス内では、今日も爆睡でした！

いよいよ明日からは、現地校との交流です。明日は、オトソン中学校に訪問します。

今まで短い期間ではありましたが、一生懸命に準備してきたので、きっと良い交流ができることと思います。

DAY4_From Arlington 2024.4.26





オトソン中学校へ

今日は、アーリントンにあるオトソン中学校を訪問しました。

中学校に到着すると、早速、一人一人ペアのオトソン中学生と共に、授業に参加しました。ホストファミリーをしてくれている生徒もおられ、とても親切に対応してくれました。授業では、日本にはない中国語などもありました。授業スタイルなど、日本との違いも体験でき、とても良い経験ができました。

1時間目から3時間目まで授業を受けた後、歓迎の集会をしてくださいました。

ここで、今まで頑張って練習を重ねてきた歌「スイートキャロライン」「手紙 拝啓15の君へ」と、踊り「ロックソーラン」を披露しました。

オトソン中学校の生徒たちは大盛り上がりで歓迎してくれました。

その後、お返しのバイオリン演奏があり、とても和やかなムードとなりました。

集会を終えると再度、授業を受け、あちらのスクールランチをペアの中学生とともにいただきました。

次は、日本クラスの開講です。

あちらの生徒に対して、日本の文化を伝えたり、遊びを教えたり、踊りを教えたりしました。はじめにそれぞれが事前に作った動画をもとに文化を説明しました。

次に、けん玉を紹介し、持ち方や皿への乗せ方を実際に見せながら教えました。お互い、自然に笑顔になり、皿に乗った時には大喜びでした。

最後にロックソーランをグループに分かれて教えました。

ミッションは初めの 1 部分を教えることで、練習時間が短い中、オトソン中の生徒も上手に踊れるようになりました。

子どもたちにとって、いい交流ができ、貴重な経験となった 1 日になりました。

中学校での交流を終え、最後にアーリントンのショッピング街を散策しました。

日本の食べ物や日用品を売っているお店や大型スーパーなどがあり、ショッピングを楽しみました。

明日からの土日は、ホストファミリーデーで、それぞれがお世話になっている家族とともに過ごします。どのように過ごしたのか、帰国した際にはお土産話のひとつとしてお子様に聞いてあげてくださいね。